



日本基督教団

伝道推進室

今こそ、福音伝道の前進のために！

suisinsitsu

News

2017.8.20

NO.9

contents

2〜3／北関東キャラバン報告 5／「宗教改革500周年記念礼拝」報告 6／伝道推進室News発「伝道コラム」・お知らせ

Mikotoba

「主に在って強く」

日本基督教団 牧師 網中 彰子

日本キリスト教協議会 総幹事



わたしは、強く雄々しくあれと命じたではないか。うろたえてはならない。おののいてはならない。あなたがどこに行ってもあなたの神、主は共にいる。

ヨシュア記 第1章9節

教会学校の小学生の頃、モーセが約束の地を目前に死ぬ命記の終わりを読んで驚きました。論功行賞のようなものはない、人の思いを遥かに超える神さまの御計画の厳然さを見せつけられた思いでした。

ある経済番組のナレーションで「モーセのようなリーダーシップによって」と聞いた時、強く揺るがぬ印象からそう引用したのだらうと思いつつ、モーセが初めその使命を拒否しどれほど抵抗したか、神さまとの生々しい、格闘のようなやり取りを思い出しました。人は揺らぎ、神さまは揺るがない。この私が消えても残る神の言葉以上に、確実に人を生かすものがない。モーセから若きヨシュアに民の旅路は託されました。導き手は変わっても、変わることなく貫き人を導くのは全ての者に向けられる、共にいる神の言葉です。

按手礼の帰り道、イエスさまに後ろからそっと抱きしめられる「ような」安心を得ました。〈私がどこに行っても、主は共にいる〉との実感です。この話を先輩牧師にしたところ、「あまり実感に頼らないほうがいい」と言われました。消えゆく実感ほど当てにならないものはありません。頼るべきものは御言葉の力のみです。神の子の、ただ一度の十字架の血による贖い

により罪赦された私たちは、そのあまりにも大きな愛に抱かれて、人が人を完全には救うことが出来ない敗北を認めます。そして、失われることのない永遠なる主の愛により生涯を征服される喜びが始まります。その道を歩む時、強く

雄々しくあれと激励されているのです。

現実を見れば今日も、先の見えない不安が世を覆うかのようです。未だ困難もあります。キリストの十字架により救われてなお、うろたえ、おののく時には、苦しみや悲しみの先頭に独りで自分が立っているのではなく、あらゆる苦難を先取りし、死から復活した主が今生きて共におられることに気付きたいと願います。

まことの強さ、雄々しさとはどのようにして与えられるのでしょうか。訓練でも努力でもなく、ただただ御言葉に強く信頼することによってしか与えられません。命は日々聖霊によって新しくされています。いつでも古い自分を捨ててやり直すことができます。あなたを作ったのは私だ、どこに行っても共にいる、と今日も御言葉をもって呼びかける主がおられるからです。たとえ世が不安に満ちていても主の平安を身に帯びて信仰者は喜ぶことが出来るのです。そんな姿が証となり他者をも力づけ主との出会いへと導いていきます。

「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイによる福音書 28:19~20)。主の伝道命令に喜びをもって謙遜な思いで従いたいと願います。

「伝道を励ます講演会」に参加して

講演『伝道—私たちは何を信じ、何を伝えるのか』

宇都宮上町教会牧師 川崎 献一

昨年 11 月 20 日(日)の午後、おもに栃木地区の教会の方々が招かれ、伝道推進室の北関東伝道キャラバンが企画された貴重な集会でした。講師の深井智朗師は、午前の主日礼拝でも宇都宮上町教会で説教者として尊く用いられました。講演の冒頭で、いわゆる伝道論ではなく、伝道の具体性の共有が大事であると釘をさされました。内容は大別すると次の通りです。

①救われた喜びの確信 ②神の国というゴールの明確化 ③聖書を読む力が生きる力に比例 ④家族への伝道のための配慮 ⑤ミッションスクール等、教会以外のキリスト教の意識改革 ⑥社会のニーズに応えるべき公共の神学 ⑦駅伝に例えられる福音の種蒔き

いずれも数多くの例話を、ユーモアも交えて分かり

やすく語られました。教団総会議長を始め、関係者の皆様の祈りが積まれ、深井師の賜物が用いられ、主の栄光が現わされた講演会と信じて感謝しています。この講演が各教会、また個人の日常にまで影響されてこそ、より神の御心に適う意義ある集会だったと言えますでしょう。

既に、講演の日から半年以上の歳月が流れました。改めて、録音されたものを聴き直した感想として、「いいお話でした」で終わっていないか？ と私自身が問われています。



講師：深井智朗氏



伝道の喜びを経験する旅

キャラバンメンバー 酒井 麻利

上三川教会に遣わされて

4 回目の参加です。遣わされるたびに、神様の御業を見させていただく思いがします。

夏期伝道実習と違って、キャラバンは牧師も神学生も一緒に大勢で派遣されます。「伝道は一人ではできないよ」と教えてくれた牧師の言葉を思い出し、この先生方は伝道の仲間になるんだ、日本中に神さまがお立てになった教会があるんだと実感が湧いてきます。

今回、私は上三川教会に遣わされました。教会学校の生徒は一人でしたが、一人のために一所懸命に御言葉が語られました。一人のために御言葉が語られることに感動しました。その後、礼拝が守られ、私は証しさせていただきました。

礼拝後、愛餐会がもたれ、お料理をたくさん持ち寄り下さって、お腹一杯いただきました。たくさんお話をさせていただき、とても楽しい時でした。上三川教会は、神様から愛され、キラキラと明るい光を放っていました。

翌日は、上三川幼稚園にも伺わせていただきました。石橋議長の腹話術と手品に子どもたちは大喜びでした。子どもたちと職員の方々が導かれますように。神様に愛され、成長を与えられていること、守られていることを知る時が来ますように。お祈りしています。

photo▲「子ども伝道集会」、上三川幼稚園・みふみ認定こども園にて



キャラバンメンバー 矢竹明日香

塩谷一粒教会での証しと愛餐会

2016 年 11 月 20 日、主の恵みの内に美しいオルガンの前奏から、自然の豊かな栃木県塩谷郡にあります塩谷一粒教会の収穫感謝・特別伝道礼拝が始まりました。私

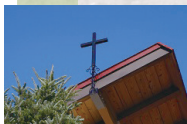
はこの礼拝の中で、神さまがどのように私と出会ってくださったのか、また、これまでとこの時まで私の内に働いておられる神さまの御業について証しする奉仕をさせていただくことができました。

この日の礼拝でも、御言葉を通して、暗闇のなかにある私たちに、主の復活の希望の光が照らされていること。また、私たちの忘れたい痛みも、主が、主のものとしてくださると知ったときに、私たちは救われたと言えるような人生へと導かれていることを塩谷一粒教会のみなさんと共に聞くことができました。この礼拝を通して、救いの喜びに満たされた私は、この喜びを多くの人に伝えたいと改めて強く思われました。

礼拝後の愛餐会では、机の上に乗るにきらないほどの料理をみなさんと共に囲み、たのしく、また温かい交わりの時を持つことができました。このような恵みの時を備えてくださった神さまに感謝いたします。

photo▲宇都宮教会にてキャラバンメンバー、塩谷一粒教会



群馬町
伝道所

群馬町伝道所牧師 村田 元

私たちの伝道所は 1980 年にどの教派の教会もなかった群馬町の原市教会員の家庭で開かれた家庭集会が始まりです。その最初から原市教会の開拓伝道として始められました。1989 年に日本基督教団の認可を受けた伝道所となり、翌年の 1990 年に原市教会や群馬地区の支援を受けて現在地を取得し、会堂を建設しました。私が長く兼務していましたが、2014 年に原市教会を辞任し、伝道所の主任となって現在に至っております。現住陪餐会員 22 名の群馬県で一番若い伝道所です。



昨年は教団伝道推進室より北関東伝道キャラバンの指定を受けさせて頂き感謝しております。特に講師として須田拓先生をお迎えできましたことは嬉しいことでありました。と申しますのは、須田先生は 19 年前に夏期伝道実習生として原市教会、群馬町伝道所で良いご奉仕を頂いた先生だったからです。

須田先生をお迎えして 11 月 20 日(日)に特別伝道礼拝を計画しましたとき、伝道所として信徒伝道を推進しておりますので、チラシを作成し、信徒の家族、知人、友人に手渡しでお配りし、口頭で誘って準備をしました。こうして先生をお迎えして「生きるにしても、死ぬるにしても一幸いな生への招きー」と題して力強いメッセージをしていただきました。33 名の方々が出席しました。普段は 18 名位の会衆ですから大変な盛会でありました。

礼拝後には須田先生を囲んでお茶会の時を持ち、「生きることについて」「信仰について」「聖書の読み方について」等様々な質問を受けて、単刀直入に答えて頂きました。とても楽しく有意義な時間でした。その後 2～3 名の方々が、時々ではありますが、新しく礼拝に出席されるようになりました。後に須田先生から「群馬町伝道所に新しい方々がこれだけ集められていることを大変うれしく思いました」とメールを頂きました。

地方の小さな伝道所にとりましては、講師をお招きして特別伝道礼拝を企画することはなかなか資金的にも困難であります。このような機会を与えられ感謝でありました。

伊勢崎
教会

伊勢崎教会牧師 遠藤 尚幸

主の御名を賛美いたします。
私たち伊勢崎教会では、2016 年 11 月 20 日(日)、伝道推進室より、北紀吉牧師、野村なるみ神学生をお迎えし、主日礼拝を守りました。礼拝出席者数は 34 名、食事会出席者数は 19 名でした。

聖書箇所は、ルカによる福音書 12 章 22～32 節の御言葉が与えられました。北牧師より、「思い煩いはどこからくるのか」と題して説教をしていただき、神の恵みに充ち溢れた礼拝となりました。

また、礼拝の中で、野村神学生の証しを聴くことができたことも大きな喜びでした。神学生の証しに触れる機会がなかなかない中で、神学生のまっすぐな言葉に感銘を受けた方も多かったようです。群馬県伊勢崎の地に、お二人を通して、福音の種が豊かに蒔かれた主日礼拝となり、教会員一同感謝をしています。

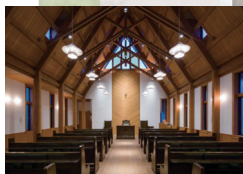
礼拝後は、お二人を囲んで食事会を持ちました。当日、初めて礼拝に出席された方が、北牧師に熱心に質問をしていた姿が印象的でした。北関東伝道キャラバンを通して、良き交わりをいただき、心から感謝をいたします。



伊勢崎教会は、2017 年度、伝道方針として『十字架の福音に生きる教会』を掲げ、この地で福音を宣べ伝えています。

「主イエスの十字架において罪を豊かに赦された者として、互いに主にある交わりを実現しながら、初めて教会を訪れる方々を受け入れ、主に結ばれたキリストの体なる教会として、この伊勢崎の地において礼拝を守り続ける…」(2017 年度伊勢崎教会伝道方針より)。これが、私たち伊勢崎教会の今年度の主題です。教会の十字架の福音に包まれたあたたかな姿を通して、主イエス・キリストの福音がこの地にある一人でも多くの人に届くことを、教会員一同祈りつつ歩んでいます。

諸教会の皆様の歩みの上にも、どうか主が共にいてくださいますように。伊勢崎の地より、お祈りしています。主にありて。



2017 宗教改革 500 年



日本基督教団宗教改革500周年記念事業



日本基督教団 宗教改革500周年記念礼拝

2017.6.22 富士見町教会

「十字架に つけられた姿で」

伝道推進室協力委員／三田教会牧師

星野 健

ああ、物分りの悪いガラテヤの人たち、だれがあなたがたを惑わしたのか。目の前に、イエス・キリストが十字架につけられた姿ではっきり示されたではないか。あなたがたに一つだけ確かめたい。あなたがたが“霊”を受けたのは、律法を行ったからですか。それとも、福音を聞いて信じたからですか。

ガラテヤの信徒への手紙 第3章1節～2節

2017年6月22日(木)、東京教区の富士見町教会で日本基督教団の宗教改革500周年記念礼拝が捧げられました。伝道推進室協力委員として、このことについて記事を書くよう仰せつかりました。別に教団新報で報告が為されると伺っていますので、ここでは日本基督教団に属する一教会に仕える一伝道者の声を記させていただきます。

★

礼拝のなかで招詞を聞き、讃詠を捧げた後、共に懺悔の祈りを捧げました。詩編130編をなぞらえて祈られる、宗教改革者ルターが祈った悔い改めの祈りです。「…主よ、わたしたちの中にあるもの、わたしたちのあらゆる力の中にあるものは、あなたからの恵みをぬきにしては、一切が罪であり、裁かれるべきものです。わたしたちは、自分自身にも、自分の業にも力にも、一切に絶望いたします。あなたの憐みを望み、求めるほか、わたしたちは何一つなすべきことを知りません。…」

説教の奉仕を捧げられた大住雄一師は、これに呼応して、ルターによる95箇条の提題の冒頭の一文を示されました。「われわれの主であり、師であるイエス・キリストが、『悔い改めよ』と言われたとき、主は信じる者の全生涯が悔い改めの生涯であることを望みたまうたのである」。ここに、今宗教改革500周年を記念することの本当の意味が示されていると信じます。そのことを想うとき立ち止まらせられ、罪の感覚が失われていくこの時代に、果たして私自身と私が仕



大住雄一東京神学大学学長の説教に聞き、聖餐に与った記念礼拝。全国各地から511名が参加。(写真提供：全国信徒会)

える教会の信徒一人一人が、自分の為すどんな働きも、自分の語るどんな言葉も、キリストの恵みなしには「一切が罪」であるという自覚に本当に生きているだろうかと問われます。そして、信徒一人一人の魂に、キリストが本当に十字架につけられている姿のままで、はっきりと描き出されるための器になりきることを求められている、伝道者の召命に立ち返らせられます。

礼拝後の感謝会で、石橋秀雄教団総会議長は、この記念の 때가、日本基督教団の伝道力の回復を祈る時であることを訴えられました。その祈りの祝福は、教団の様々な方策のなかから始まるのではなく、この日示されたように、今もう一度日本基督教団の全教職と全信徒が、十字架につけられた姿のキリストの前に立ち、悔い改めることから始まることを信じます。

★

礼拝説教によって、救いがキリストにおいて完全に「神の事柄」となったと示されました。それなのに、教会の外ではなく只中で、十字架につけられたキリストが、あたかも自己犠牲的な愛の最高度の理想像（最も美しい人間イエス）であるかのように語られるのを多く聞きます。そこに再びまた、信じないでも分かる人の事柄のなかに救いの手立てを見ようとする、あくなき願望が忍び込むのを見過ごすことはできません。

ルターに現れ、福音の再発見を与えられた生けるキリストが、今全く同じその恵みへわたしたちを招いてくださっている祝福を心からほめ讃えつつ、今新たに、真に全く神の事柄として、全ての人に十字架につけられた姿のキリストが描き出される道を祈り求めます。

しりとり

伝道川柳

詠み人
1

食卓も 主から賜る ご委託場

shiritori NEXT

聖餐式の話？愛餐の話？使徒言行録2章43節以下の話？勿論、それも大切ですが、私の家の食卓の話です。私には現在、2歳の娘がいます。この娘は、食卓につくとお祈りを自ら始めます。誰かが教えたわけではありませんが、今は、自ら進んで食前の祈りを捧げます。異言に近いような言葉で祈り始めますが、最後の「アーメン」は誰よりも大きな声ではっきりと言います。今では、おままだとでもお祈りをします。家庭での小さな交わりと言える食卓でも、娘には、イエス様との交わりの場であることを教えられました。伝道の課題の中には、信仰継承の課題がありますが、自分の身内への伝道こそ、一番の難問であると感じる人は少なくないはず。けれど、力むことなく、目の前の食卓を主への感謝の場とすることもまた、大切な伝道のきっかけであると思うのです。因みに娘は、「天のお父さん」ではなく、「天のお母さん」と言います。家庭では、父よりも母が強いのです…。

京都教区・石山教会 須賀 工



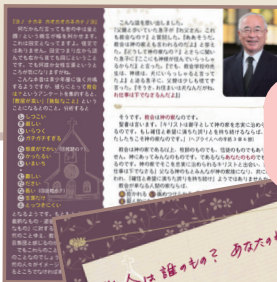
伝道推進室 News の新連載コラム「しりとり伝道川柳」では、全国の伝道推進室協力委員（各教区1名）の皆さまに、「伝道に関わって全く自由に」川柳と文章を寄せていただきます。川柳の最後の言葉を「尻とり」して、今号執筆者の指名により、次号の執筆者に繋ぎます。乞うご期待！

伝道トラクトをご活用ください

山北宣久 牧師

New!

教会は誰のもの？
あなたのも！



近藤勝彦 牧師

死よりも
確かなものはないのか



Christmas
Message

わたしだけの誰か

網中彰子 牧師



すべてのわざには
時がある

教団ホームページ（伝道推進室のページ）で、内容をお読みになれます。

問い合わせ・
お申し込みは

Tel 03-3202-0541 Fax 03-3207-3918
E-mail dendo-s@uccj.org

教会名等の刷込 なし…1枚10円、刷込 あり…1枚12円
（山北宣久トラクトは刷込の有無にかかわらず1枚15円）
教団ホームページから購入申込書をダウンロードできます。

伝道推進室 維持献金のお願い

伝道推進室の働きは皆さまの祈りと献金によって支えられています。誌面でご紹介した伝道キャラバンや伝道集会を行うための講師派遣などご相談に応じます。一人でも多くの方が主と出会う機会が与えられますよう、祈りお捧げください。



《郵便振替口座》

00150-4-338628 日本基督教団伝道推進室

編集後記

- ★初めて出会った頃のときめきは何処へ。恋愛の話ではありません。
- ★イエスさまとの出会いは、すべての人にとって人生を変える驚くべき恵み。
- ★日々与えられている恵みに感謝して、わくわくしながら歩みましょう。
- ★神さまの家である教会に、主との新しい出会いがありますよう祈ります。
- ★なお続く宗教改革 500 周年記念の集いに聖霊の力が注がれますように。

（広報実務委員会）



《伝道推進室基本方針》

日本基督教団は、聖なる公同の教会に連なる福音主義合同教会である。本教団は、簡易信条と公会主義の伝統を継承しつつ、十字架と復活の主のご委託に応じて、日本伝道の幻に仕える。伝道推進室は、伝道委員会のもとに設置された機関であり、『日本基督教団信仰告白』と『日本基督教団教憲教規』に基づく信仰の一致をもって、さらには将来の『伝道局』構想を視野に入れつつ、教団全体における伝道の実践と研究に取り組み、教団内諸教会、諸団体における伝道の推進に仕えるために活動する。

●発行者／石橋秀雄 ●発行日／2017年8月20日

伝道推進室 No.9

●発行所／日本基督教団 伝道推進室

《日本基督教団事務局内》

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31 〈郵便振替 00150-4-338628〉

TEL 03-3202-0541 FAX 03-3207-3918 URL <http://uccj.org>